



NEWS

No. 176
June 2018

(公社) 日本工学アカデミー広報委員会

Office : 〒 108-0014 東京都港区芝 5-26-20
建築会館 4F

Tel : 03-5442-0481

Fax : 03-5442-0485

E-mail : academy@ej.or.jp

URL : <http://www.eaj.or.jp/>



第6回〈通算第22回〉定時社員総会

常務理事 大江田 憲治 / KENJI OEDA

第6回(通算22回)定時社員総会が、2018年6月6日(ホテル東京ガーデンパレス)3階「鶴」の間で開催されました。正会員数742名のうち416(当日出席52名、表決委任364名)の出席を得て、総会が成立し、長井常務理事の司会で総会が開会されました。定款規定により阿部博之会長が議長を務め、



まず、第1号議案「(1)2017年度事業報告」では、会員の顕著な増加、ジェンダー委員会の発足、談話サロンの開催、日豪若手による国際連携、関西支部の設立などが報告され、原案通り承認されました。第2号議案「(2)2017年度収支決算」では、個人会員及び賛助会員企業による会費収入の増加や外部資金獲得により黒字化に至ったことが報告され原案どおり承認されました。引き続き、第3号議案から第5号議案の、(3)役員の選任、(4)会費に関する件(45歳以下半額、客員会員会費について)、(5)専務理事、常務理事の報酬に関する3件につき審議され、原案通り承認されました。さらに、報告事項として、(6)2018年度事業計画及び収支予算の説明がされました。

引き続き、新会員の推薦に大きく貢献された神山新一顧問に阿部会長から特別表彰が授与されました。委員会・プロジェクトの活動報告は、委員会関連では、人材育成委員会、ジェンダー委員会、安全知と安全学委員会の3つの報告があり、プロジェクト関連では、材料、基礎工学、ロボット・AI、バイオ・医療、コミュニケーション科学、生産技術と教育法、SDGsにおける科学技術イノベーションの役割、次世代コンピューティング、海洋研究の戦略的推進、立法府と工学アカデミーの10件の活動概要が報告されました。

次に、新役員からなる第一回の理事会が開催され、阿部会長ほか、副会長、専務理事、常務理事が選任され、代表理事の代行順位、専務理事、常務理事の報酬等、承認されました。



この後、今回初めてとなる第一回 EAJ フォーラムが開催され、最後に懇親会が開かれ、参加者の間で更なる交流の輪をもつことができました。

なお、2017年度活動報告・収支決算、2018年度事業計画・収支予算等は、「活動報告2017・2018」に掲載し発行する予定です。

EAJ フォーラム 2018 企画委員会委員長 中西 友子 / TOMOKO M. NAKANISHI
 企画推進グループリーダー 城石 芳博 / YOSHIHIRO SHIROISH (文責)

我が国の持続的成長に向けた社会課題と科学技術の役割について洞察し、その課題と工学の役割についての理解を深めることが益々重要になっている。そこで、日本工学アカデミー (EAJ) では、工学、科学技術、社会の関係を広く議論する場として、総会の開催日に合わせて、EAJ フォーラムを開催することとした。今回は、その記念すべき初回として、「これからの工学が果たすべき役割を考える」と題して平成 30 年 6 月 6 日 (木) にホテル 東京ガーデンパレスで会員 78 名、賛助会員 10 名、非会員 10 名の計 98 名の参加を得て開催された。

会議は、本フォーラムの企画委員長である中西友子副会長の司会により開始された。まず、阿部博之会長から、参加者への御礼と、今まで行ってきた政策提言や本フォーラムなど工学を通じた EAJ の更なる貢献が重要であることなど、開会挨拶があり、次いで来賓の、渡海紀三朗 衆議院議員、上山隆大 総合科学技術・イノベーション会議議員から、我が国における、科学技術とイノベーション (STI) の強化の重要性と、社会を見据えた EAJ からの政策提言、発信への強い期待などが述べられた。



阿部博之会長



中西友子副会長

上山隆大
CSTI 議員渡海紀三朗
衆議院議員

野依良治会員

次いで、JST 研究開発戦略センター長・ノーベル化学賞受賞者 野依良治会員から熱のこもった特別講演「時代が求める知は何か」があり、まず現代の科学技術の状況に対しては第 3 の維新革命が必要であり、本当に時代を変えられるのは若者のみなので応援していきたいという言葉から始まった。日本の基礎研究の質の低下については、評価手法の課題、若い研究者が自立できる環境整備、大学の公開性、自然発生的な同一種のグループ (群れ) ではなく、明確な行動目標を共有する意図的に作られた社会、つまり、組織としてのチーム (組) の重要性などが述べられた。そして最後に文化を貴ぶ文明社会を作るため、「思想」が大切であり、研究者自らが考えていかなければならないと訴えられた。

さらに、筑波大学システム情報系 教授・サイバーダイネ CEO 山海嘉之 会員から、「【サイバニクス：人・ロボット・情報系の融合複合】を駆使したイノベーション創出への挑戦」と題した講演 I があり、サイバニクスの最前線などが述べられた。



会場の様子



寺西信一会員

また講演Ⅱでは、静岡大学電子工学研究所 特任教授・クイーンエリザベス女王工学賞受賞者 寺西信一会員から「日本でも社長業を育てよう」と題し、企業や、ご自身の経験を踏まえつつ、理系・文系の区別の廃止、お金の教育、ビジネスマインドの重要性などに関して、非常に興味深いご講演をいただいた。日本では社長を育てる環境が全く整っていないこと、また教育面では「社長」になることに興味を持つ子供が育ってほしいこと、技術を製品に結び付けられるよう、特に技術者には起業家マインドを持ってほしいことなどが述べられた。

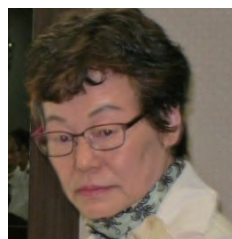
その後、元朝日新聞論説委員 辻篤子会員の司会でパネルディスカッションが開かれ、東京大学執行役・副学長 有信睦弘会員、株式会社鳥居食情報調節研究所 代表取締役 鳥居邦夫会員から、これからの工学が果たすべき役割などについての議論が行われた。会場の会員からの活発な質疑も含め、予定どおりディスカッションが進められた。最後に、第1回 EAJ フォーラムを中心となって企画した企画委員長の中西副会長から、参加者への御礼と閉会挨拶が述べられ大盛況のうちに終了した。



鳥居邦夫会員



有信睦弘会員



辻篤子会員



会場の様子



城石芳博会員

続いて大江田憲治常務理事の司会で交流会が開催された。正会員 52 名、賛助会員 3 名、非会員 2 名の計 57 名が参加し、阿部博之会長の挨拶、飯塚幸三顧問の乾杯の音頭で始まった交流会は、早くも第2回の EAJ フォーラムへの期待が話題になるなど非常に盛り上がった。最後に、小泉英明上級副会長の閉会の辞をもって、第1回の EAJ フォーラムは閉会した。



大江田憲治常務理事



阿部博之会長



飯塚幸三顧問



小泉英明上級副会長



交流会の様子

本フォーラムの開催に当たり、関係者各位のご尽力に厚く御礼を申し上げます。

EAJ シンポジウム（第 13 回安全工学フォーラム） 「日本メーカー製品の品質低下による事故や製品性能データ捏造問題」

安全知と安全学委員会幹事 吉村 健志 / KENJI YOSHIMURA

数え年で十三歳を迎えた安全工学フォーラムは、平成 30 年 3 月 16 日、御茶ノ水のトライエッジカンファレンスにおいて EAJ シンポジウムとして開催された。

近年、日本メーカー製品の品質低下による事故や製品性能データねつ造問題が明らかになっている。そこで、首題をテーマに品質と安全文化フォーラム代表理事の中嶋洋介氏と大成建設株式会社 管理本部 法務部長の南波裕樹氏に問題提起をお願いし、パネルディスカッションを通じて、現状の理解と、製造者・学識経験者が今後とるべきアクションなどについて整理した。



南波裕樹氏
大成建設株式会社
管理本部 法務部長



中嶋洋介氏
品質と安全文化フォーラム
代表理事

当日は、EAJ 会員・賛助会員や産業界から幅広くご参加をいただき、様々な視点から議論をおこなった。まず、安全知と安全学委員会 向殿政男委員長が趣旨説明をおこなったのに続き、中嶋洋介氏が、ご自身の豊富な経験に基づいた具体的事例を挙げつつ、データ改ざん、検査・出荷の不正の原因について考察した。そして、再発防止策として、納期や売上げ等の経営者の不当なプレッシャーを防ぐために、コンプライアンス（倫理綱領）をベースにする適格性評価のための要員認証制度を提案した。

次に、南波裕樹氏が、企業に真の安全文化を確立するためにできることについて、企業法務の立場から一つの試論を示した。具体的には、不正をおこなう原因の三要素として、不正を起こす動機「Pressure」、不正をしても露見しない方法や環境が揃っている「Opportunity」、皆がやっていることだからと自分に言い聞かせてルールを破る「Justification」があることを紹介するとともに、企業には、どこまで顧客・消費者・安全・コンプライアンスを優先事項として考えられるかが問われるという課題を提示した。

パネルディスカッションでは、企業文化をはじめとして、専門化・分業化、教育、人事評価制度、第三者認証制度など、様々な切り口から現状を共有し、未然防止策に関する議論がなされた。

安全知と安全学委員会は十三詣りを済ませ、一度も振り返らずに渡月橋を渡りきることができたといえよう。これまでの活動の中で授かった知恵を、今後の活動に活かしていきたい。

当日配布した資料は、EAJ ウェブサイト内の「安全知と安全学委員会」のページで公開しています。当日参加できなかった方は是非ダウンロードの上ご参照いただきたい。

安全知と安全学委員会のページ

<https://www.eaj.or.jp/?p=4911>



中嶋洋介氏 南波裕樹氏 向殿政男委員長

第1回ジェンダーシンポジウム 「女性参画で工学が変わる、工学を変えるー活躍する女性ー」

ジェンダー委員会委員長 渡辺 美代子 / MIYOKO O. WATANABE

2018年3月31日、EAJはジェンダー委員会企画のジェンダーシンポジウム「女性参画で工学が変わる、工学を変える」を東京大学本郷キャンパス情報学環・福武ホールにて主催いたしました。東京大学男女共同参画室と大学院工学系研究科に共催いただき、府省、大学、公的機関、企業、財団などから約90名の方々に参加いただきました。通常のEAJのシンポジウムにはなかなか参加いただかない銀行の方、自営業の方、広告会社の方、政策関係者など多彩な立場の方々に参加いただきました。

冒頭挨拶では、阿部博之会長からEAJが工学分野のジェンダーにこれから積極的に取り組むためにジェンダー委員会を立ち上げたことを宣言いただきました。続く東京大学大学院工学系研究科長の久保達也氏から、東京大学の工学系で活躍する女性教員や女子学生が増えてきたこととその活躍への期待をご挨拶いただきました。基調講演では、インド建設工事現場監督兼現地法人社長を務めるオリエンタルコンサルタンツグローバルの阿部玲子氏に「インド建設プロジェクトの現状」と題してお話いただきました。たくさんの映像を用いて私たちの知らないインドの工事現場の実情を説明いただくと共に、グローバルビジネスを獲得し実行するための秘策を現場からの声としてお伝えいただきました。その後、東京大学教授の辻佳子氏からは、日本の男女研究者の現状を紹介いただき、続いて名古屋大学特任教授の辻篤子氏にファシリテーターをお願いし、阿部玲子氏に加え、理化学研究所理事の小安重夫氏と産業技術研究所理事の加藤一実氏にパネリストとして参加いただいて、パネル討論を行いました。パネル討論では、それぞれの立場から女性参画で日本の工学がどう変わるかを議論いただきました。最後にジェンダー委員会渡辺委員長より、工学においてジェンダーを考慮することでこれまではない新しい価値を創造できる事例が集まりつつある中、これからの時代に即したすべての人のための工学のあり方をより多くの人たちと考え、委員会として提言していく決意を示して締めくくりました。

左：小安重夫氏（理化学研究所理事）

中：加藤一実氏（産業技術総合研究所理事）

右：阿部玲子氏
（オリエンタルコンサルタンツグローバル
インド現地法人社長）



前列左から、平尾明子委員、山口栄一委員、久保達也氏（東京大学大学院工学系研究科長）、渡辺美代子委員長
加藤一実氏（産業技術総合研究所理事）、阿部玲子氏（オリエンタルコンサルタンツグローバルインド現地法人社長）
小安重夫氏（理化学研究所理事）、辻篤子氏（名古屋大学特任教授）、阿部博之会長

北海道・東北支部主催の支部創立5周年記念式典・記念講演会が、平成30年4月13日(金)15時より東北大学片平キャンパス内片平さくらホール(仙台市)にて開催された。参加者は約60名。

記念式典では、岸浪健史副支部長(室蘭工業大学監事)の司会で進行し、宮城光信支部長による挨拶ならびに支部設立の経緯の説明があった。北海道・東北支部は平成24年12月15日に創立され、以来、年4回の講演会を北海道及び東北六県にて開催している。



宮城光信支部長



岸浪健史副支部長

その後、阿部博之会長による挨拶があり、引き続き滝澤博胤副学長(大野英男東北大学総長代理)による挨拶があった。記念式典の後は川上伸昭教授(宮城大学学長・理事長)と平川新教授(宮城学院女子大学学長)による記念講演があった。

まず、川上伸昭教授(宮城大学学長・理事長)による記念講演では、「科学技術行政と大学 深まる関係」と題し、戦後復興からの日本における科学技術行政の取り組みの紹介と、21世紀になって伸びなくなった科学技術予算、少子化、大学教員の高齢化、きわめて低い大学教員の流動性に関する指摘と、オープンイノベーションで求められる大学の大きな役割と産学官がチームとして課題を共有して取り組む方向性について分かり易い説明があった。また、東北放射光の挑戦(次世代放射光施設)や、宮城大学における基盤教育(フレッシュマンコア)、地域フィールドワークについて紹介があった。

続いて、平川新教授(宮城学院女子大学学長)による記念講演では、「歴史研究から災害を考える」と題し、歴史学が専門の同氏は、文理融合を特徴とした防災科学研究拠点を2008年頃から提唱。2011年の東日本大震災後に、東北大学に災害科学国際研究所が設立され、初代研究所長に就任し、東北地方に残されている古文書を読み解くことで、1611年にあった慶長奥州津波を復元するなど、歴史から読み解く災害について、興味深い紹介があった。

講演終了後は、会場を移し、講師を囲んで和やかに懇談した。



阿部博之会長

滝澤博胤教授
(東北大学副学長)川上伸昭教授
(宮城大学学長・理事長)平川新教授
(宮城学院女子大学学長)

大阪大学大学院工学研究科長 田中 敏宏 / TANAKA TOSHIHIRO

平成 30 年 5 月 29 日に大阪大学・中之島センターにて、関西支部設立総会・記念講演会が開催され、日本工学アカデミーに 4 番目の支部が誕生した。設立総会に先立ち、5 月 15 日の本部理事会において関西支部の内規ならびに初代支部長として大阪大学・西尾章治郎総長の就任が承認された。

関西支部設立総会では、最初に西尾章治郎関西支部長が開会の辞を述べられ、続いて日本工学アカデミー・阿部博之会長からご挨拶を頂き、関西地区からの支部誕生への強い期待が述べられた。引き続き、来賓の経済産業省近畿経済局・森清局長、伊藤忠商事株式会社・深野弘行常務理事から祝辞をいただいた。



阿部博之会長



西尾章治郎関西支部長

次いで、関西支部設立の経緯が説明され、運営委員の紹介と今後の主な方針が説明された。運営委員会の構成メンバーは、初代の支部長に西尾章治郎氏（大阪大学総長）、副支部長に八木康史氏（大阪大学理事・副学長）、運営委員に池田佳和氏（大谷大学真宗総合研究所）、尾上孝雄氏（大阪大学教授）、嘉門雅史氏（京都大学名誉教授）、久保司朗氏（摂南大学教授）、小川真人氏（神戸大学理事・副学長）、河原克己氏（ダイキン工業株式会社テクノロジー・イノベーションセンター副センター長）、堤和彦氏（三菱電機株式会社顧問）、石出孝氏（三菱重工株式会社執行役員フェロー技師長）、北岡光夫氏（株式会社島津製作所常務執行役員基盤技術研究所所長）、運営委員幹事に北村隆行氏（京都大学教授）、富山明男氏（神戸大学教授）、田中敏宏（大阪大学教授）である。



武田晴夫会員

支部総会に続き関西支部設立記念講演会が行われた。講演会は武田晴夫会員（日本工学アカデミー SDGs プロジェクトリーダー）から「SDGs への日本工学アカデミーの貢献」と題して行われた。

その後、会場を同館内の交流サロンに移し、記念祝賀会が開催された。祝賀会では、西尾章治郎関西支部長が開会の辞を行い、続いて中村道治会員（日本工学アカデミー理事）、武田廣会員（神戸大学学長）、嘉門雅史会員（京都大学名誉教授）より祝辞をいただき、林良嗣会員（中部支部長）のスピーチを伴う乾杯の発声により始まり、1 時間半に亘って歓談が続き、最後に八木康史副支部長が閉会の辞を述べられた。この祝賀会により会員相互および行政、企業、経済団体との交流が深められた。

以上、本部から多くのご出席をいただき、また多くのご支援を頂いたことに深い謝意を示すとともに、会員の皆様に関西支部設立総会を報告し、会員および先輩支部のご助言と交流をお願いする次第である。



新入正会員のご紹介

(2017 年 8 月入会者)

〔第 6 分野〕

たるちや せいご
樽茶 清吾



東京大学大学院工学系研究科 教授

1953 年愛媛県生まれ。1978 年東京大学大学院工学系研究科修了後、日本電信電話公社（現 NTT）入社。1986 年工学博士（東京大学）。デルフト工科大学客員研究員を経て、1998 年より現職。2013 年理化学研究所創発物性科学研究センター量子情報エレクトロニクス部門長、2018 年同センター副センター長に就任。現在は量子機能システム研究グループ、グループディレクター兼務。

〔第 1 分野〕

うと しょうたろう
宇都 正太郎



国立研究開発法人 海上・港湾・航空技術研究所 理事

海上技術安全研究所 所長

1960 年千葉市生まれ。1985 年大阪大学工学系研究科造船学専攻前期課程を修了し、運輸省船舶技術研究所（現所属機関の前身）に入所。1995 年工学博士（大阪大学）。2018 年より現職。専門は船舶海洋流体力学及び氷工学。

ふじた まさひろ
藤田 正弘



三菱電機（株） 常務執行役・開発本部長

1957 年大阪市生まれ。1983 年東京大学大学院工学系研究科修士課程修了。同年三菱電機（株）入社。研究所および製作所にて産業用ロボットなどメカトロニクス関連機器の研究開発・製品開発に従事。米国 Mitsubishi Electric Research Laboratories, EVP&CFO、人材開発センター長などを経て、2014 年先端技術総合研究所長に就任。2017 年より現職。

〔第 2 分野〕

ささき よしき
佐々木 美樹



日本戦略投資（株） 代表取締役

1951 年和歌山県生まれ。京都大学システム工学修士。日立製作所、SRI International、日本アジア投資（株）専務取締役を経て現職。大学発ベンチャー育成、東南アジアや農業への投資、在宅医療事業、アフリカ支援などを行う。

れん ふじ
任 福継



徳島大学 教授

1959 年生まれ。1982 年北京郵電大学卒業。1991 年北海道大学大学院工学研究科博士後期課程修了。博士（工学）。広島市立大学助教授を経て、2001 年より徳島大学教授。人工知能、感情ロボット、自然言語処理の研究に従事。

〔第 3 分野〕

はしもと かずひと
橋本 和仁



国立研究開発法人物質・材料研究機構 理事長

1955 年北海道生まれ。1980 年東京大学大学院修士課程修了。理学博士。東京大学先端科学技術研究センター教授、所長、工学系研究科教授を経て 2016 年より政策ビジョン研究センター教授・総長特別参与、現在に至る。2016 年現職に就任。内閣府総合科学技術・イノベーション会議議員。日本学術会議会員。

おだ よしあき
織田 佳明



住友化学（株） 常務執行役員

1986 年大阪大学大学院理学研究科修士課程修了後、住友化学工業（株）に入社。新規有機合成反応の開発工業化に従事し、1996 年に大阪大学より博士（工学）。触媒研究リーダー、先端材料探索研究所長などを経て、現職。専門は、有機化学、触媒、MOT。

こんどう あきひこ
近藤 昭彦



神戸大学大学院 科学技術イノベーション研究科長・教授

1959 年長野県生まれ。京都大学大学院工学研究科博士課程修了。九州工業大学を経て、1995 年神戸大学工学部助教授、2003 年同教授、2016 年より現職。2012 年より理化学研究所・環境資源科学センター・チームリーダーを兼任。専門は、生物化学工学、特に代謝工学や合成生物学技術の開発と、有用細胞育種への応用。

〔第 7 分野〕

きむら とおる
木村 徹



大日本住友製薬株式会社 取締役 執行役員

1960 年滋賀県生まれ。1989 年京都大学大学院理学研究科博士課程修了。住友化学工業株式会社、住友製薬株式会社を経て 2005 年より大日本住友製薬株式会社に。おもに精神神経系の創薬研究と再生医療の実用化研究に従事。

〔第 8 分野〕

たかはし ひでひと
高橋 秀仁



昭和電工株式会社 取締役常務執行役員 戦略企画部管掌

1986 年東京大学経済学部卒業、1992 年コロンビア大学経営修士課程修了。三菱銀行（株）に入社。2002 年に日本ゼネラルエレクトリック（株）事業開発部に転職。その後外資系企業の日本法人の代表を 3 社経験し、2016 年より昭和電工（株）の戦略企画部を管掌、現在に至る。

新入客員会員のご紹介

（2018 年 2 月入会者）

がお うえいじゅん
高 偉俊



北九州市立大学国際環境工学部 教授

1962 年中国浙江省海寧市生まれ。1982 年同済大学卒。1987 年浙江大学大学院修了。1987 年より浙江大学建築系講師。1996 年早稲田大学大学院修了、博士（工学）。1996 年より早稲田大学講師客員助教授、2001 年より北九州市立大学助教授、教授。専門は都市環境計画。

INFORMATION

寄付者ご芳名

柚原 義久 様 5 口

* 公益社団法人日本工学アカデミーの財政強化のために、寄付についてぜひご協力をお願いいたします。
なお公益社団法人への寄付行為が認められた寄付者は、税制面での優遇措置が受けられます。

杉浦 賢 会員	1956 年 3 月	東京大学工学部電気工学科卒業
2017 年 10 月 10 日逝去 85 歳	1956 年 4 月	電気試験所（現 電子技術総合研究所）入所
財団法人機械振興協会 副会長	1970 年	工学博士
	1987 年 4 月	EAJ 入会
	1987 年 9 月	電子技術総合研究所長
謹んでご冥福をお祈り申し上げます。	1989 年 6 月	工業技術院長
	1991 年 6 月	財団法人機械振興協会 副会長

▶ 2018年度（平成30年度）会費払込みのお願い

6月6日の定時社員総会において2017年度収支決算の決議と2018年度収支予算の報告が行われましたので、今年度の正会員及び賛助会員の会費について間もなく請求書をお送りさせていただきます。お払い込みのほどよろしくお願い申し上げます。

なお正会員については終身会員制も選んでいただけますので、ご希望の会員は事務局にご一報ください。事務局から改めて計算書と終身会費請求書をお送りさせていただきますので、必ずその後に終身会費を払い込みください。終身会員制の詳細につきましては、EAJウェブサイト内の法人概要のページにて「終身会員に関する内規」をご覧ください。

（法人概要のページ⇒<https://www.eaj.or.jp/?p=4520>）

▶ 顕彰・叙勲

2018年春の叙勲・褒章受章者が発表されました。その栄に浴された会員の方々に、心よりお祝い申し上げます。なお、瑞宝大綬章を受章されました平野眞一会員のご業績については、次回のEAJ NEWS No.177に掲載を予定しております。

▶ 事務局における夏季軽装（クールビズ）の実施について

5月1日（火）から9月30日（日）まで、本会事務局において軽装での勤務を実施いたします。会員の皆様にはご理解を賜りますようお願い申し上げます。

▶ 事務局夏季休業のお知らせ

8月11日（土）から16日（木）まで、本会事務局は夏季休暇期間とさせていただきます。期間中は、事務局を一時的に閉鎖いたしますので、会員の皆様のご理解ご協力をお願い申し上げます。

編集後記

情報発信が少ないので日本工学アカデミー（以下 EAJ）が今何をやってるのかよく分からない、という御意見を多くの方々からいただいたのをきっかけに、EAJ 内外とのコミュニケーションの活発化を進めるため、休止しておりました広報委員会が再開されることになりました。

将来のペーパーレス化へ向けて文書のデジタル化を推進するとともに、英文ホームページなどのホームページの充実を図りたいと思います。また、昨年度から準備を進めてきました会員間の迅速な情報共有・情報交換のためのメールマガジンの発行も始める予定です。政策提言などの活動の成果を国会議員、行政、マスコミ、一般市民へ効果的に発信していくなど、EAJ の外部発信も活性化させたいと思っております。

（広報委員会委員長 林秀樹）